

令和5年度 第1回今治市ふるさと共創・共生ビジョン懇談会 会議録

- 1 日 時 令和5年5月23日（火）午前10時00分～午前11時30分
- 2 会 場 今治市役所 第2別館11階 特別会議室1・2号
- 3 議 事 地方創生推進交付金事業（令和4年度実施事業）の効果検証について
- 4 出席者 <座長>
富田企画政策局長

<専門委員>

瀬野 哲郎	渡部 輔	越智 善一	山崎 昭二
村上 直樹	二宮 隆	吉武美由紀	川田 卓哉
高田 誠也	宇佐美浩子	村上あらし	上村 友希
岡村 泰彦	相原 正樹		

<構成員>

健康推進課	村上 能朗	福祉政策課	村上 留実
産業振興課	月原 康博	観光課	尾崎 大輔
地域振興課	鳥生 宏	農林水産課	渡部 誠也
市民参画課	池田 茂	防災危機管理課	大澤 栄一

<オブザーバー>

伊予銀行 今治支店
日本政策金融公庫 新居浜支店

<PT及び事業担当者>

総務調整課	阿部 浩一	地域振興課	安永 隆司
こども未来課	越智 浩	i.i.imabari!推進課	梶川 ゆか
i.i.imabari!推進課	越智 康浩	道路課	片上 勝文
下水道業務課	越智 敬	消防本部総務課	井手 玉記
教育大綱推進課	崎山 憲一		

<事務局>

市民が真ん中課 馬越課長、藤岡課長補佐、川崎係長、
月原主査、越智主査

日 時 令和5年5月23日（火）10:00～11:30

場 所 今治市役所11階特別会議室1、2号

<p>事務局</p>	<p>本日は、ご多忙の中、お集まりいただきましてありがとうございます。ただ今から令和5年度第1回「今治市ふるさと共創・共生ビジョン懇談会」を開催いたします。</p> <p>私、事務局を務めさせていただきます市民が真ん中課長の馬越でございます。よろしくお願いたします。</p> <p>それでは、開会に当たりまして、座長であります企画政策局長の富田からご挨拶申し上げます。</p>
<p>座長</p>	<p>皆様、こんにちは。座長を務めさせていただきます、企画政策局長の富田と申します。どうぞよろしくお願い申し上げます。また、本日はお忙しい中お集まりいただき、誠にありがとうございます。</p> <p>さて、人口減少の抑制に向け策定いたしました「今治市まち・ひと・しごと創生総合戦略」につきましては、記載されている各種事業を順次、国からの交付金を活用しながら実施しているところでございます。これらの事業実施に際しましては、皆様のご理解・ご協力を賜っておりますこと、厚くお礼申し上げます。</p> <p>また、この交付金を活用した事業の実施効果について、国の制度上、検証を行う必要がございます。本日の懇談会では、その交付金を活用し実施した令和4年度実施事業における数値目標の達成度や効果検証について、委員の皆さまからのご意見を頂戴いたしたく存じます。</p> <p>なお、本懇談会は公開会議とさせていただきますので、会の途中で傍聴される方が入室する場合がございますので、ご了承いただければと存じます。</p> <p>会議録におきましても、市の公式ホームページにて公開させていただきますので、ご理解賜りますよう、お願い申し上げます。</p> <p>それでは、本日はどうぞよろしくお願いいたします。まずは、本日の議事の進め方について事務局からご説明いたします。</p>
<p>事務局</p>	<p>それでは、本日ご意見をいただく地域再生計画と地方創生推進交付金の制度概要からご説明いたします。</p> <p>地方創生推進交付金は、「総合戦略」に基づき、自主的・</p>

<p>(つづき)</p>	<p>主体的で、官民協働、地域間連携、政策間連携等の要素を含む先導的な事業に対して、国から必要経費の2分の1が交付金として交付されるものでございます。</p> <p>この交付金を受けるためには、実施しようとする事業を記載した「地域再生計画」を策定する必要があり、計画には、事業の具体的内容や、KPI、評価体制等についての記載が求められます。</p> <p>計画の取組をより効果的に進めるためには、この評価体制の部分で、各数値目標の達成度により事業の進捗状況を検証し、それを反映させて改善していく仕組みが求められております。</p> <p>外部専門委員の皆さまからのご意見を頂戴し、しっかりとした効果検証を実施する必要がありますので、ご協力を賜りますようお願い申し上げます。</p> <p>次に、これから皆様に協議していただくにあたり、議論の進め方についてご説明いたします。</p> <p>まず、今回ご協議いただく計画ごとに作成しております、資料 1～5の地域再生計画評価調書について、KPIの達成状況と、実施した具体的事業の概要と事業の実施効果や今後の方針等についてご説明申し上げ、そのあと、事業ごとに区切って委員の皆様からご意見をいただくという流れで進めさせていただきます。</p> <p>以上が協議の進め方でございます。</p>
<p>座長</p>	<p>本日の議事の進行について、なにかご質問等ございませんでしょうか。</p> <p>特にないようでしたら、先ほどの事務局の説明の通り進行させていただきますので、積極的なご発言をよろしく願います。</p> <p>早速ですが、本日の議事、地方創生推進交付金事業（令和4年度実施事業）の効果検証について、協議をさせていただきます。</p> <p>はじめに、資料1、地域再生計画評価調書「マスターブランドでまちの価値を高めるまちづくり計画」について、担当課よりご説明します。</p>
<p>i. i. imabari!推進課 (梶川課長補佐)</p>	<p>それでは、「マスターブランドでまちの価値を高めるまちづくり計画」について説明いたします。事業は大きく2つあ</p>

(つづき)

ります。

まず1つ目は、アイアイ今治キャンペーンを対外的に発信し、観光客など交流人口の拡大や域内での滞在時間の延長につなげたり、市民や地元企業と共創してモノやコトを創ることでブランドイメージを高める「今治」という地域ブランディング事業です。

2つ目は、アイアイ今治キャンペーンを市民生活や各種活動などに浸透させることで、市民の「今治」に対する愛着や誇りといったシビックプライドの醸成を目指す「今治」のシビックプライド醸成事業です。

「今治」という地域ブランディング事業では、事業実施の効果として、Instagram のフォロワー数が令和4年4月当初に比べて1.26倍の2,030人に増加、Facebook フォロワー数も年度当初に比べて1.07倍の1,880人に増加しました。芸能人を活用し、首都圏での初となるプロモーションイベントを東京 KITTE で開催したこと、またお笑い芸人を活用し、空き家活用・特産品開発など地域活性化に取り組むテレビ番組企画などを SNS で紹介したことが、奏功したと考えられます。瀬戸内の「海の文化」情報発信事業でも、今治港開港100周年記念事業として開催した「みなとフェスティバル100」でブルーインパルス展示飛行を実施しましたが、一目見ようとする人々で市内に大渋滞ができるほど、多くの人で賑わいました。

「今治」のシビックプライド醸成事業では、事業実施の効果として、高校生の今治に対する認識が深まったり、SNS 投稿企画を通じて、市民の皆さんに本市の魅力を再認識いただけました。また、自転車愛好家にはサイクリングだけでなくアウトドアやアクティビティを、アクティビティ愛好家にはサイクリングに興味を持っていただけるような双方向の取組を行ったことで、滞在型観光及び誘客促進に繋がりました。さらには、市内小学校24校の4年生や前年コロナ禍で実施できなかった小学5年生約1,300名に対し村上海賊の出前講座を実施するなど、地域の歴史への正しい理解と次世代への「今治の海の文化」伝承ができています。

事業を実施したことによる目標数値に対する実績値と、達成度に係る分析についてですが、with コロナ時代を迎え、

<p>(つづき)</p>	<p>令和4年度は目標1、目標2ともにコロナ禍前には及ばないものの、観光客、とりわけ県外客の来訪が大幅に増えました。また、目標3、若年人口の社会増減については、相変わらず転出超過が続いています。一朝一夕に効果が現われるものではないため、粘り強く事業に取り組む必要があると考えております。</p> <p>今後の方針、改善点などにつきまして、令和4年度策定したアイアイ今治キャンペーンのMISSIONを達成するための事業展開を目指します。「今治」という地域のブランディング事業では、今後もブランドイメージによる情報発信や市内外で今治を体験できるイベントを実施していきます。「今治」のシビックプライド醸成事業につきましても、地域の若者が進学等で転出しても、将来的に戻ってきたくなるように、また市外から転入し、今治市へ通学してくれる人達が卒業後も今治に残ってもらえるよう小学生や中学生、高校・大学生を対象にした事業を実施していきます。加えて、市の施策でもロゴマークを多く活用するなど、市民の皆さんの目に触れる機会を増やしてまいります。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>座長</p>	<p>ありがとうございました。1つ目の事業、「マスターブランドでまちの価値を高めるまちづくり計画」について、ご意見・ご質問等ございませんでしょうか。</p>
<p>A委員</p>	<p>SNSでの発信はすごくよくやられているのを拝見してまして、とてもポジティブで素晴らしいことと思っておりますし、成果があるということをお聞きしてすごくいいなと思います。</p> <p>特にネガティブポイントが全くなくて、その感じで頑張っていかれると良いんじゃないかと思いました。不勉強で申し訳ないんですけども、芸能人を活用した空き家活用ってどんな企画でございましたか。</p>
<p>i. i. imabari!推進課 (梶川課長補佐)</p>	<p>テレビ愛媛と吉本興業株式会社の共同企画に今治市が参画させていただきました。村上ショージさんの地元が大島の吉海町ですが、大島を元気にしようというプロジェクトがございまして、空き家を活用して拠点を作ったり、特産品開発に向けてショージさんがレモン栽培についてお勉強しているところでございます。</p>

<p>A委員</p>	<p>そういえば、村上ショージさん、空き家活用の話ですね。ありがとうございます。</p> <p>本当にSNSって継続が力だと思いますので、続けられるのがよろしいかと思います。</p> <p>転出超過でなく、転入の方がどんどん大きくなるように民間各社も、今治は本当に素敵なところだよと、県外の人たちにアピールしていく形で、連携できればと思っていますので、引き続きよろしくお願いします。</p>
<p>座長</p>	<p>ありがとうございました。その他、何かございますでしょうか。</p> <p>ないようでしたら、本計画の効果検証につきましては、「今後の方針、改善点など」欄に記載しております通り、必要な改善を加えながら取り組みを進めていくということでご了解、いただいたものとさせていただきますよろしいでしょうか。</p> <p>(異議なし)</p> <p>ありがとうございました。</p> <p>それでは続きまして、資料2 地域再生計画評価調書「今治スタイル「移住力」強化事業」について、担当課よりご説明します。</p>
<p>地域振興課 (鳥生課長補佐)</p>	<p>今治スタイル「移住力」強化事業についてご説明申し上げます。</p> <p>令和3年度から実施の事業で、2年目の事業となります。</p> <p>本事業の背景及び目的といたしましては、海事産業や繊維産業等の地場産業を背景とした「ものづくり」のまちとして発展してきたことを踏まえ、都市部住民や移住希望者に対して、地域事業者からの人材ニーズや理想の田舎暮らし環境などとの情報のマッチングを総合的にコーディネートする体制を整備し、本市への人流の創生につなげることです。</p> <p>まず、理想のワークライフバランス環境整備事業です。</p> <p>本市地域資源を活用したワーケーション環境を、都市部で働く人たちや企業に対しPRし、コーディネートを通じて実際に体験してもらう事を目的とした事業です。</p> <p>令和4年度におきましては、観光、宿泊事業者などの体験提供者との協業により、都市部企業やファミリー層向けのワ</p>

(つづき)

一ケーションプログラム構築、提案にかかる実証を行いました。

関連する重要業績評価指標（KPI）の達成状況につきましては、新型コロナウイルスの影響による移動制限が緩和されたこともあり、目標3ワーケーションの実践といたしまして、目標値の647.8%、プラス2,073人・日と大幅な増加を達成しました。

事業効果としまして、新たな関係性構築を通じて「住みたい田舎」への風土醸成が図られ、地域事業者の参画増加に伴う新たな滞在消費マーケットが掘り起されたほか、外部人材の誘引につながる自律的な人的ネットワーク基盤の整備など市民意識の高まりにも寄与しました。

次に、移住・定住・関係人口の拡大推進事業です。

住環境の提供に必要な手続きや様々な相談を1箇所ですべて済ませることができる体制の確立と、地域体験などを通じた強い関係性に基づく関係人口の拡大に向けた取り組みを行いました。

令和4年度におきましては、主としてインターネットメディアによって、本市の移住環境に関するコンテンツの造成、情報発信を行ったほか、移住相談履歴などの分析を基とした移住相談マニュアルの作成、移住相談記録の整理、閲覧できる相談記録システムの整備などを実施しました。

KPIにつきましては、目標1ワンストップコンシェルジュ事業を通じた移住の実現といたしまして、目標の142.6%、77人の増加を達成しており、目標2移住希望相談件数については、目標の946.3%、634人という大幅な増加を記録しました。

要因としては、当初計画どおりに都市部でのプロモーション活動・イベントがスムーズに実施でき、移住相談へと効率的、戦略的に誘導できたことなどが挙げられます。

これらの取り組みにより、Uターンや元々今治市と繋がりが深い関係性の深い移住人口の戦略的な獲得に向けた基盤が確立され、ワンストップでの相談対応が可能となる基盤整備ができました。

続きまして、「空き家等の市場化促進事業」についてです。

<p>(つづき)</p>	<p>移住希望者の視点に立って、市場化可能な空き家ストックについて、宅建業者等の積極的な関与を促進しつつ、適切かつ迅速な情報提供を可能にする仕組みづくりを進めました。</p> <p>令和4年度におきましては、業務に関する知見を有するシルバー人材センター会員の方にご協力をいただきまして、相談・物件調査業務の環境を確立いたしました。</p> <p>また、空き家情報市場化を円滑に実施し、かつ、運用を効率的に進めるべく、市の空き家情報を管理するシステム「空き家バンクシステム」を通じて、全国版空き家バンク「アットホーム空き家バンク」とのAPI連携という仕組みを構築し、効率的な運用基盤を整備いたしました。</p> <p>KPIについては、目標4空き家バンクを通じた物件情報搭載数といたしまして、目標の44.4%、12軒の増加にとどまりました。</p> <p>この要因としては、空き家物件の掘り起こしにかかる周知活動等について、地域内外への十分な浸透ができなかったことから、目標数値を下回る結果となりました。</p> <p>事業効果としては、デジタル面での運用基盤が確立し、インターネットによる効果的な情報発信体制が整備されました。また、空き家ストック情報の効果的な収集業務をシルバー人材センターの高齢者層が担ったことで、新たな人材活用の姿を提示することができました。</p> <p>今後の方針、改善点につきましては、移住や関係人口拡大に向けて、本市の持つ地域資源への「気づき」のための仕掛けとして、都市部住民に対するプロモーション活動を積極的に展開するとともに、柔軟で多様なニーズに対応できる移住相談体制を確立し、必要な情報や人的ネットワークの集約化と整理を進めます。</p> <p>また、これらの取り組みの延長線上には、官民連携のコンソーシアム設立を目標としており、関係機関、団体の相互連携を図り、さまざまな相談に対応可能な体制整備を進めます。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>座長</p>	<p>以上で、2つ目の事業、「今治スタイル「移住力」強化事業」についての説明が終わりました。ここまでの内容で、ご意見・ご質問等ございませんでしょうか。</p>

B委員	<p>令和3年から令和4年にかけて予定よりも多くの移住の実現が見られ、誠にいいこと、ありがたいことだと思うのですが、移住者はどのような職業に就かれているかというデータはありますか。</p>
<p>地域振興課 (鳥生課長補佐)</p>	<p>やはり多いのは、こちらにきて、どちらかの企業にお勤めになる方が多いようです。</p> <p>中にはやはりご自身で起業をされたりとか、企業で働いていらっしゃる方、いずれにしても移住ということですので、ご自身の希望によってこちらの今治市に来た方っていうのが、移住者の対象になっております。</p> <p>また、農業を始める方もいらっしゃいます。</p>
B委員	<p>今でなくても構いませんので、もし、データがあれば見せていただきたいのですが。</p>
<p>地域振興課 (鳥生課長補佐)</p>	<p>データにつきましては、後日改めてお示しさせていただきます。</p>
C委員	<p>時々、商工会議所にも移住したいという問い合わせがあったりしますが、その際、そちらの方にご紹介をして、結果、実際この空き家を使われたとか住まわれていることもありますか。</p> <p>また、現時点で空き家を紹介してそこにお住まいの方はいらっしゃいますか。</p>
<p>地域振興課 (鳥生課長補佐)</p>	<p>もちろん、多くいらっしゃいます。</p> <p>また、今治に住みたいっていう情報があったら、空き家バンク等で紹介している情報を元に、私ども照会もかけております。</p> <p>是非どんどん誘致していただけたらと思っております。</p>
C委員	<p>先ほどの職業に関連して、就職の斡旋まではされていないのでしょうか。</p>
<p>地域振興課 (鳥生課長補佐)</p>	<p>職業については、連携を図っている団体があり、公益財団法人産業雇用安定センター愛媛支部であったり、クリアナビ等と連携いたしまして、ウェブ上での紹介に加え、先ほどご説明申し上げました都市部でのイベント「来てみて！！日本一住みたいまち いまばりフェア」などで一緒に情報発信するような仕組みをとっております。</p>
A委員	<p>今ちょうどお話にあった、やはり仕事と住むっていうこと、お金の収入の当てがなければ、引っ越してくれないとい</p>

<p>(つづき)</p>	<p>うのはすごく大きいと思います。</p> <p>うちもすごい人手不足を大三島で本当に人が取れなくて、例えば外国人のお客様も多いので英語を話せる人が欲しいとかって言った場合なかなか、島の中とか、今治市内だけでは見つからなかったりするときに、ちょうどなんかたまたま東京でイベントやられるタイミングがおありで、ちょっとうちのパンフレット持ってっていただけませんか、人が欲しいですみたいな感じのこと、ちょっとそういう機会があったんですけども、おっしゃる通りウェブとかもそうですし、結構強烈にリンクというか東京の人材を今治で使いたいという会社さんも結構あったりすると思うんですね。またこの特性が違ったりだとかして、本当に東京に住んでいる人でこっちに住みたいって人めっちゃめっちゃいっぱいいるんで。</p> <p>もっと豊かな暮らしをしたいっていうふうな意味で、移住したいという人が山ほどいるんで、仕組みとして、仕事はもうセットでそこで、少なくとも、東京から人を取ってみたいっていう興味のある企業さんの情報は必ず出てるじゃないですけども、収入の当てさえあれば本当に引っ越ししやすくなるので、改めて強化していただけるとすごくいいかもしれないなと思います。</p> <p>すいません。感想だけで。</p>
<p>地域振興課 (鳥生課長補佐)</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>是非またいろいろとお声がけいただきましたら、我々できることは全力でやらせていただきますので、お願いいたします。</p>
<p>D委員</p>	<p>移住に関してはすごくホットなところかなと思いますけれども他市の方からも、今治市さんすごいねっていうような声もよく聞くんですけども、行政さんの方で随分頑張っていてランキングなども全国発信ができていのかと思いますので、そこからどう肉付けしていくかというところかと思えます。</p> <p>先日フォーラムもありまして私も参加させていただいたんですけども、その中で出てきた話などの中でも、なにが今治の魅力として引っかかって、移住してきたのかっていうそのキーワードみたいのところとかフックみたいのところ、そういうものをもっといろいろと掘り下げるといいよねみたい</p>

<p>(つづき)</p>	<p>な話があって、いろいろと移住された方の発信、広報とか SNS とかいろいろされてらっしゃると思うんですけども、そういう情報をさらにもっと発信していただいたら、例えばラジオの方などでも市民の皆さんに共有できたりとか、今治の魅力として、なかなか住んでる人は気づかないっていう話もありましたけれども、こんなところに響いているのかとか、こういう魅力が実はあるのかっていうことが、市民の皆さんとも共有できると思うので、ざっくりしたお話は結構多いんですけども、例えばキーワードみたいなところでいろいろと、出していただくと、市民の方の助成もできたりとか、企業さんはもしかしたらそれで引っかかってくる場所もあるのかななんて思いました。</p> <p>また今後の発信をよろしく願います。</p>
<p>地域振興課 (鳥生課長補佐)</p>	<p>是非させていただきます。 どうもありがとうございます。</p>
<p>E委員</p>	<p>愛媛県内それも同じ東予地区において移住者の方と地元の方とのトラブルの事例が先日テレビで放送されていたのを目にしました。</p> <p>移住される方の受け入れにはただ単に住居などハードの整備だけでなく、やはりその移住後のソフトの問題、受け入れ後のフォローとかもお考えいただき移住者が孤立することの無いよう当市でも取り組んでいただけたらと思います。</p>
<p>地域振興課 (鳥生課長補佐)</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>先ほどE委員おっしゃっていただいたような、移住後にそういった相談ができる体制とかにつきましても、先ほど説明させていただいたワンストップコンシェルジュの方で、我々地域振興課と島しょ部ではしまなみ振興課で、また各支所に、移住相談員もおりますので、どんどん皆さんからも情報を発信していただいて、例えば支所に行ったらそういう相談体制ができているんだよとか、そういったところの情報発信も、皆様の方にもお願いできたら非常にありがたいかなと思います。</p>
<p>座長</p>	<p>ありがとうございました。</p> <p>その他、ご意見、ご質問等ございませんでしょうか。</p> <p>それでは、先ほどいただきましたご意見につきましては、評価調書の「外部有識者による評価」欄に記載させていただきます。</p>

<p>(つづき)</p>	<p>きます。</p> <p>また、必要があれば「今後の方針、改善点など」欄に「いただいた意見」を追記させていただきますので、よろしくお願いいたします。</p> <p>それでは続きまして、資料3 地域再生計画評価調書「新技術の実証・新用途の開発による「ものづくり産業」から「価値づくり産業」への産業高度化・担い手人材育成事業」について、担当課よりご説明します。</p>
<p>産業振興課 (月原課長補佐)</p>	<p>『新技術の実証・新用途の開発による「ものづくり産業」から「価値づくり産業」への産業高度化・担い手人材育成事業』について説明します。</p> <p>本事業は、市内事業者による付加価値の高いものづくりを促進することを目的としており、『今治共創ラボ』の運営を行う『今治価値づくりコンソーシアムの構築』事業と、地域のものづくり企業に好影響を与えるモデル事業の創出を目指す『域外技術のインバウンド事業』、『域内技術のアウトバウンド事業』の3つの事業から構成されております。</p> <p>1つ目の『今治価値づくりコンソーシアムの構築』事業は、引き続き『共創ラボ』の運営を地場産業振興センターに委託し、セミナーの開催やモデル事業の成果報告会を開催するなど市内企業に参画してもらう取り組みを行うとともに、新たに「地場産業とクリエイターによる共創事業」を実施し、新たな事業者の開拓支援を行いました。しかし目標1である『共創ラボ』に新たに参画した地元企業数は15社で合計44社、目標2である『共創ラボ推進委員』として新たに参画する地元人材数は3人で合計15人とどまり、両目標とも目標値に達することができませんでした。今後は『共創ラボ』のメリットをより多くの市内企業に理解してもらうよう地場産業振興センターと一層連携を強化し、魅力ある「共創ラボ」の運営や情報発信に努めていく必要があると考えています。</p> <p>2つ目の『域外技術のインバウンド事業』は、伴走支援事業者である Linkers (株) の監修のもと、市内事業者が抱える課題を解決する技術を有する域外企業を全国から探索し、市内事業者とマッチングすることで新たな技術やサービスの</p>

<p>(つづき)</p>	<p>開発に取り組む事業でございます。昨年度は選出した市内支援事業者5者に対して域外企業との共同開発が円滑に進むよう進捗管理、関連技術領域の情報提供・用途仮説構築支援などの伴走支援に取り組んだ結果、2件の成果が得られるなど、目標3の数値を達成することができました。</p> <p>3つ目の『域内技術のアウトバウンド事業』につきましては、伴走支援事業者である(株)TRINUSの監修のもと、市内事業者が保有する独自技術や素材に、全国から公募したクリエイターのアイデアやデザインをマッチングし、新商品・新サービスの創出に取り組む事業でございます。昨年度は選出した市内支援事業者6者に対してクリエイターとの新商品開発が円滑に進むように新商品コンセプトによるデザイン設計やコンセプトのブラッシュアップ、試作開発の助言など新商品創出の伴走支援に取り組んだ結果、7件の成果が得られ、目標4の数値を上回ることができました。</p> <p>最後に『域外技術のインバウンド事業』、『域内技術のアウトバウンド事業』とも、引き続き各支援企業の伴走支援に取り組み、付加価値向上を目的とした新商品・新サービスの開発に取り組むとともに、3つの事業をしっかりと連携させさせながら実施することで、事業効果を高めてまいりたいと考えております。</p> <p>説明は以上でございます。</p>
<p>座長</p>	<p>以上で、3つ目の事業、『新技術の実証・新用途の開発による「ものづくり産業」から「価値づくり産業」への産業高度化・担い手人材育成事業』についての説明が終わりました。</p> <p>ここまでの内容で、ご意見・ご質問等ございませんでしょうか。</p>
<p>B委員</p>	<p>具体的にこんなものがこうなったみたいなのを示すことはできますか。</p>
<p>産業振興課 (月原課長補佐)</p>	<p>すいません、ちょっとここに委員さんの資料をお持ちしていないんですけれども、口頭で簡単に説明させていただきます。</p> <p>域外技術のインバウンド事業ですけれども、2件、成果が得られまして、商品名が、新しい光美容器の量産ともう一つはリアルタイムな在庫管理システムの構築という2件が成果</p>

<p>(つづき)</p>	<p>としてありました。</p> <p>リアルタイムの在庫システムの構築は市内のタオル業者が、タオル事業者が IC タグを使って商品管理をするシステムです。</p> <p>もう一つの美しい光美容器の量産なんですけれども、女性をターゲットにしてお風呂で光を当てることによって、保湿効果を高めるような商品を開発しております。</p> <p>もう一つ、域内技術のアウトバウンド事業ですけれども、こちらのは7件あるんですけれども、例えば大島石で出生体重で干支を作ってみるとか、例えば市内の製瓦さんが、今コロナ禍なので、なかなか外でバーベキューができない状況なので、自宅で1人もしくは家族で楽しむことができるコンパクトな七輪を開発しております。</p> <p>その他、市内の印刷業者が、文具女子をターゲットにレーザーセットを開発したり、例えばタオル業者が、タオルでタオルの積み木セット、子供が口に入れても安全な積み木セットを成果として商品開発しております。</p> <p>商品開発中の商品も多くて、今後は商品のブラッシュアップや販路開拓が3年目の課題なのかなというふうに考えております。</p>
<p>F委員</p>	<p>いろんな取り組みをされて、技術も開発されてることで、今後ともそういったことに取り組んでいただきたいと思っております。</p> <p>また、農業になりますと6次産業とかで、何か参考になるようなご意見等ございましたら、私も勉強させていきたいと思っておりますので、ちょうだいしたいと思います。</p>
<p>G委員</p>	<p>先ほどの美容の機器のお話がありましたけどすごく女性としても興味があるんです。ぜひ販売というか、試用とか試してていうのがあれば、お声掛けいただければと思います。</p>
<p>H委員</p>	<p>資料3だけに限らず資料1、2にも関連すると思えますし、今まで意見も出てきたように、単発で終わるのではなくて後のフォローがやはり重要になってくるかなと思えます。</p> <p>移住にしても、この新たな事業展開ということについても、なかなか成果は上がりにくいかなとは思いますが、これを続けることに意義があると思えますので、引き続き何らかの新しい発展も期待して続けていただければと思います。</p>

<p>座長</p>	<p>ありがとうございます。</p> <p>本日いただいたご意見は、評価調書の「外部有識者による評価」欄に記載させていただきます。また、必要があれば「今後の方針、改善点など」欄に追記させていただきますのでよろしく願いいたします。</p> <p>それでは続きまして、資料4 地域再生計画評価調書「デジタルコンテンツ等を活用した雇用促進事業」について、担当課よりご説明します。</p>
<p>産業振興課 (月原課長補佐)</p>	<p>『デジタルコンテンツ等を活用した雇用促進事業』について説明します。</p> <p>本事業は、『デジタルコンテンツ等を活用した UIJ ターン促進事業』、『地域課題解決を通じた若者や女性等の創業支援事業』、『デジタル人材を軸とした雇用促進事業』といった3つの柱となる事業を有機的に組み合わせて実施することで、若年層の人口流出を抑制するとともに、人口流入を増加させ、市内企業の雇用促進に繋げていくこととしています。</p> <p>3つの事業の概要について説明申し上げますと、1つ目の『デジタルコンテンツ等を活用した UIJ ターン促進事業』では、デジタルコンテンツを活用して、市内企業の魅力発信や、企業と若者とのマッチング機会の創出、また、市内産業、企業に対する愛着や興味を持ってもらうためのキャリア教育などを実施することとしております。</p> <p>2つ目の『地域課題解決を通じた若者や女性等の創業支援事業』につきましても、創業に係る初期投資費用を補助する制度を立ち上げ、本市の地域課題解決に資する創業を促進することとしております。</p> <p>3つ目の『デジタル人材を軸とした雇用促進事業』では、市内にデジタル人材を育成する体制を整備するとともに、国内でも不足しているデジタル人材を確保しやすい土壌を確立することで、人材確保における本市の優位性を高め、情報通信分野等の企業誘致や、市内企業の ICT 導入等を推進することとしています。</p> <p>本市では、進学を契機に市外へ流出した若者の大部分が、そのまま市外で就職等し、市内へ還流する若者が少ないことや、市外からの就職転入者等が著しく少ないといった課題を抱えており、これらの事業を実施することで、若者の還流、</p>

<p>(つづき)</p>	<p>流入を促して参ります。</p> <p>令和4年度の実績としましては、1つ目の『デジタルコンテンツ等を活用したUIJターン促進事業』において、市内高校生が市内企業を実際に訪問し、企業の紹介動画を作成するキャリア教育や、市内企業と令和5年度学卒予定者とのマッチングを目的としたオンライン合同説明会を開催したほか、2つ目の『地域課題解決を通じた若者や女性等の創業支援事業』において、今治スタートアップ創業支援補助金を立ち上げ、4件の創業を支援しました。ちなみに、当該補助制度は、移住者や空き店舗を活用した開業等について、補助率や補助限度額を嵩上げすることとしており、補助金の交付対象となった4件の創業のうち、3件が移住者による創業であり、当該事業の実施により、市外からの人材確保に寄与することができました。3つ目の『デジタル人材を軸とした雇用創出事業』につきましては実施できませんでしたが、今年度以降デジタル人材を育成する環境整備を進めて参ります。</p> <p>次に、資料上段の重要業績評価指標（KPI）の達成状況でございますが、ウィズコロナ、アフターコロナを見据え、実施時期の変更等、事業計画の見直しを行ったことなどから、いずれも目標値を下回る結果となっておりますが、本年度以降は、前述の事業を効果的に実施し、目標値の達成を目指したいと考えております。</p> <p>説明は以上でございます。</p>
<p>座長</p>	<p>ありがとうございました。以上で、4つ目の事業、「デジタルコンテンツ等を活用した雇用促進事業」についての説明が終わりました。ここまでの内容で、ご意見・ご質問等ございませんでしょうか。</p>
<p>I 委員</p>	<p>デジタルの活用ということで、社会福祉協議会にも、ご相談とかまた今後の要望として、地元の高齢者や障がいのある方のデジタルの活用が難しい方に対する配慮といったところも課題として、声を聞いていることがあったりします。</p> <p>また、新しい創業支援というところで、福祉や医療とか介護といったところとの関連が今後の方向としてあるかどうかそういったところを少しお聞きできたらと思いました。</p>
<p>産業振興課 (月原課長補佐)</p>	<p>本事業につきまして、障がい者とか高齢者に配慮した制度設計は現在できておりません。</p>

<p>(つづき)</p>	<p>I 委員さんの意見をお聞きしまして、少しでもそういう方たちにも配慮した事業になるよう今後検討したいと考えておりますので、引き続きよろしくお願ひいたします。</p>
<p>J 委員</p>	<p>本当に基本的、初歩的な質問で恐縮ですが、デジタル人材を軸とした雇用創出事業のところで、「デジタル人材」は、具体的にどういう人材のことなのかをまず教えていただきたいことと、デジタル人材の育成ということで、どのような方法をとられているのか、それをお聞きしたいと思います。</p>
<p>産業振興課 (月原課長補佐)</p>	<p>デジタル人材について、特に定義はないんですけども、イメージとしてはパソコンを使っているような作業をする。 プログラミングやシステム開発等をするのがデジタル人材なのかなど、個人的な意見ですけども、市内にはそういう人材が少ないと考えておまして、そういう人材を少しでも育てて、そういう方が市内企業へどんどん就職をしていって企業の効率化を図るとか新たな事業に展開していただくとか、そういう人材を育てたいと考えております。 もちろん現状だとなかなか難しいので、そういったデジタル人材を育てていく企業も誘致をしていきたいと考えております。</p>
<p>J 委員</p>	<p>よくわかったようなわからないような、申し訳ありません。 デジタル人材っていうのは、簡単な言葉で言いかえると、私でもわかるような、こういうことですので、こういうことができる人ですっていうふうに言い換えていただくとすると、どういうふうな表現になりますでしょうか。 ただ、パソコンができる人っていうことだけではないような気がするんですが。</p>
<p>座長</p>	<p>多分、プログラマーとかシステムエンジニアっていうふうなところで、例えば、中小企業に就職した方で、その中で例えば事務の効率化のために、雇用の管理システムを構築したり、そういった部分で活躍できる人材が、デジタル人材ということで、今担当課からご説明させていただきました。 そういったシステムをいろんな企業に取り入れていただいて、作業の効率化を図ったり、今まで3人かかっていたところが1人でも十分こなせるようになるようなシステムを開発していく、そういう人材のことを言っていると思います。</p>

K委員	デジタル人材を軸とした雇用創出事業ということなんですけれども、人材育成のターゲットは大体どのくらいの人を、育成しようということなんでしょうか。
産業振興課 (月原課長補佐)	特にこれといった年齢は設けてないんですけれども、社会人を対象としております。女性や主婦の方も含まれてくると思います。
K委員	女性とか主婦、今、就職していない方をデジタル人材として育成して雇用を図るとか、そういう話なんでしょうかね。今年度、具体的に計画があったりするのでしょうか。
産業振興課 (月原課長補佐)	今、そういうデジタル人材を雇用創出するための事業に参画していただける企業を公募しております。何社公募したか把握していないんですけれども、プロポーザルをして、1企業を選定して、その1社と連携して事業を進めていきたいと考えております。
D委員	若者や女性の創業支援事業ということで4件マッチングしてるということなんですけれども、これも、一応デジタル縛りがあるというふうに考えていいですか。
産業振興課 (月原課長補佐)	2番のところなんですけれども、ここについては特にそのデジタルというところは関係なくて、地域の課題解決に資する創業であれば補助金の対象にしております。
D委員	よかったら具体的にどういった事業があるのか教えていただくと、またちょっと絵が見えやすいので、周りにちょっと興味がある方にお声掛けもしやすいかなと思ったりしてるんですけれども。
産業振興課 (月原課長補佐)	4件のうち先ほど3件が移住者が創業したということで、創業内容を申し上げますと、飲食業、宿泊業、整骨院、菓子製造業でございます。
座長	<p>他にございませんか。ないようでしたら、先ほどいただきました委員の皆様からのご意見等は、評価調書の外部有識者による評価欄に記載させていただきます。</p> <p>また、必要があれば「今後の方針、改善点など」欄に追記させていただきます。</p> <p>それでは続きまして、資料5 地域再生計画評価調書「今治版地域商社創設及び機能確立プロジェクト」について、担当課よりご説明します。</p>

i. i. imabari!推進課
(越智係長)

『今治版地域商社創設及び機能確立プロジェクト』について説明させていただきます。

本事業は、瀬戸内の「へそ」ともいえる本市の地理的な優位性を活用し、従前の課題である資金、消費、投資の域外への流出を流入へと変化させ、地域所得を循環させる「瀬戸内クロスポイント構想」の実現を目指し、その司令塔としての「今治版地域商社」を確立する事を目的にしており、令和4年度においては主に2つの事業を実施しました。

まず1つ目が、本市における地域商社の機能を検討し、実際に設立するための準備としての『地域商社機能構築調査検討業務』。もう1つは地域商社での業務として想定される『地域産品トライアル事業』でございます。

1点目の地域商社機能構築調査検討業務は、愛媛県にある地域商社「フレンドシップえひめ」と、首都圏の大手シンクタンクである「大和総研」への業務委託により実施しました。事業者への直接ヒアリングによる課題やニーズ等の調査分析、地域経済分析システムや受託者の保有する独自データによる分析も実施し、さらに今治市の手本となり得る他地域の地域商社の事例調査等を実施しました。それらを踏まえたうえで、より具体的に地域商社事業を検討した事により、今治市にとって最適な事業内容と組織を導き出すことができたのではないかと考えております。

2点目の地域産品トライアル事業は、商社の基本的業務になりうると想定される地場産品の販路拡大事業のパイロット版として実施したものでございます。具体的には市内事業者の新商品の開発の支援と、販路拡大のための展示会出展の助成でございます。新商品開発支援においては、既存商品のリブランディングや梱包資材の開発など多岐にわたり、事業費の一部補助だけに留まらず、希望する事業者に対しては大都市圏に販路を持つアドバイザーやデザイナーとのマッチングを行い、総合的なブランディングのサポートを実施しました。市内14の事業者様を対象に実施し、試作品までの完成に留まった事業者は現在も引続き商品としての完成を目指している所でございます。また、展示会出展の助成では中四国ビジネスフェアへの出展料を助成し、参加事業者の販路拡大に貢献できたことはもちろん、商品に対するバイヤーからの

<p>(つづき)</p>	<p>意見を直に聞く事で、今後に向けて非常に意義のある事業となりました。</p> <p>この2つの事業を経まして、令和5年度においては、地域商社を設立し、地場製品の販路の拡大を推進していく予定です。新たに設立される商社の事業と、今治市の施策との調整を図りながら、より効果的な地域商社にしていきたいと考えております。</p> <p>KPIにつきましましては、具体的に実際に商社ができた後の数字を想定したというところをごさしまして、令和4年度に関しましては、関係者、こちら目標4のみが数字が入っている状況でございます。</p> <p>肝心要の地域商社がいつできるのか、代表者が誰になるのかに関しましては、非常にデリケートな時期というところがございますけれども、そう遠くない未来、近々、メディアリリースを通じて記者発表という形で、商社のビジョン、目標を広く市民の皆様にご周知をさせていただく予定でございます。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>座長</p>	<p>ありがとうございました。以上で、5つ目の事業「今治版地域商社創設及び機能確立プロジェクト」についての説明が終わりました。ここまでの内容で、ご意見・ご質問等ございませんでしょうか。</p>
<p>L委員</p>	<p>今治版地域商社を設立ということですが、先ほどのご説明では、まだちょっと具体的なことはあまり決まってないような感じはするんですけど、地域商社機能構築調査検討業務で、今治市に最適な地域商社を設立する案が大体決まったということなんですけども、もう少し具体的に地域商社とは何をするのか、何を目的にするのか、具体的に何をするのか、発表できる範囲でちょっと教えていただきたらと思います。</p>
<p>i. i. imabari!推進課 (越智係長)</p>	<p>我々が調査を進めていく中でまず、委託業務の中で市内事業者様にアンケートを取らせていただきました。</p> <p>その中で年商1,000万円を超える市内事業者様約市内に1,000社ございますけれども、そのうちの約半数にアンケートをさせていただきまして、40%の回答がございました。</p> <p>その中で一番困っているところはどうかというところに関して、やはり商品の販路拡大と開発に非常に課題を持つ</p>

(つづき)	<p>ていると結果が出ましたので、今現在具体的に考えているところに関しましては、地場製品の販路拡大を図る、一層推進するというのがまず第一になってこようかと考えております。</p>
L委員	<p>全国に向かって情報発信をして、地場製品の販売の拡大のお手伝いをするというイメージですかね。</p>
i. i. imabari!推進課 (越智係長)	<p>地域商社自らが積極的に売っていくというところもございますし、市内の事業者様のお手伝いをさせていただくと、どちらも該当すると考えております。</p>
M委員	<p>先ほどお聞きした中で、我々愛媛県漁協としましても、宮窪の10kt（テンノット）真鯛とかでは、販売していただいているとお聞きをしておりますけれども、その中で東京でしたらアンテナショップとか、そういうふうなものを設けてもらったら、まずそちらから一つ、販売網ができてから商社さんに売っていただくということができると思いますので、そういったことも一つの提案としてさせていただきます。</p>
N委員	<p>今現在、種をまいているところだと思うので、まだ成果等は出てこないと思いますが、もうすぐその地域商社が設立してプレスリリースされるということですので、その時に、何か今治だけではなく地方都市にいると思うのはやっぱり皆さん、慎ましいというか宣伝を積極的にされないの、設立された暁には大々的なアピールをしていただけたらと思います。</p>
B委員	<p>最終的には、どのレベルまでの大きさにするつもりですか。</p> <p>例えばタオル工業組合とか農協とか漁協とか、全部含めて一括で今治市全体をまとめてやろうというものですか。</p> <p>それともそれぞれの部門と同じ並列で並ぶということですか。</p>
i. i. imabari!推進課 (越智係長)	<p>今治市内全ての団体をまとめ上げて、商社がその代表になってというような考えまでは持っておりません。</p> <p>おっしゃられた通り、並列で、なおかつ市内事業者様の、邪魔をしてはいけませんので、協業・棲み分けといった所を考えていながら事業を検討していく必要があると考えております。</p>
B委員	<p>例えばタオルなり、魚なり、野菜など、いろんな種類のも</p>

(つづき)	<p>のを、各地へ行って宣伝をして、そのお手伝いをと、今治市がそういうものを全部作ったりするわけにはいきませんので、そのお手伝いをするというのでしょうか。</p>
i. i. imabari!推進課 (越智係長)	<p>商社自ら売っていく部分と、お手伝いしていく両面がございいます。</p>
H委員	<p>各企業がもう既にいろいろと販売しているのと、競合してしまうのかなという心配もあるんですけど、そのあたり独自でできるところはいいんでしょうけれど、独自でできないところを、販路がないところをまとめてやろうとするのか、それとも、今治市が何か新しいものを開発して、それを今治の企業と共同で、例えばタオルと食品と何か合わせて新しい商品を作って販売していこうとしているのか。それは基本的にはどっちになるんでしょうか。</p>
i. i. imabari!推進課 (越智係長)	<p>新しい商品、今治なりのものを作って、売っていこうというところもございいますけれども、例えば今販路がない、小規模事業者の販路拡大のお手伝いっていうのも当然、やっていく事業と考えております。</p> <p>順番的にどちらかということではなくて恐らく同時にしていくということになるかと思えます。</p>
E委員	<p>つい最近、我々も東京へ高速バスが行っている関係ありまして、その取引先から、個人的に記念のタオルを配りたいんで、どこか紹介してほしいというような話をいただきました。</p> <p>我々が今治の人間だから、タオル美術館とかどうですかというご案内したんですけど、そういう繋がりのない方だったら、多分首都圏の方で、今治タオルがまとまった数欲しい場合、なかなかとっかかりがないと思うんで、そういう情報整理をするということをこの地域商社でされたらどうか思うんです。とりあえずタオルで何かお困りだったらここへ電話してくださいと、その用途にかなった会社をご紹介しますとか、そういう情報の交通整理をする機能をやっていただいたらいいんじゃないかなと個人的に思ったりします。</p>
座長	<p>本日いただいたご意見は、評価調書の「外部有識者による評価」欄に記載させていただきます。</p> <p>必要に応じて「今後の方針、改善点など」欄に追記させていただきますのでよろしくお願ひします。</p>

<p>(つづき)</p>	<p>以上で本日の議事がすべて終了いたしました。委員の皆様、ありがとうございました。</p> <p>最後に、今後の予定について事務局よりご説明いたします。</p>
<p>事務局 (馬越課長)</p>	<p>それではご説明いたします。</p> <p>本日委員の皆さまからいただいたご意見を、資料1～5の評価調書に記載し、市の方針もそれをふまえた内容に調整したうえで、6月上旬を目途に、委員の皆さまにお送りさせていただきますので、ご確認をいただきますようお願いいたします。</p> <p>評価結果につきましては、市議会にもお示ししたうえで、市のホームページにて公表させていただきます。</p> <p>次に、委員の任期満了に伴う選任について、でございます。</p> <p>令和3年7月に委員の委嘱をさせていただいて以降、2年の任期が今年6月末で満了するところでございます。この間、委員の皆様には大変お世話になり、ありがとうございました。</p> <p>市といたしましては、地方創生の取組を進めるなかで、ビジョン懇談会は今後も継続して実施する予定であります。7月からの新たな任期の委員については、国のデジタル田園都市国家構想総合戦略等を勘案し、デジタル分野に精通する団体・有識者の方に参画いただくことも検討しております。</p> <p>7月以降も引き続いて委員の就任をお願いする際には、役職等の見直しも含めて、6月中に改めてご相談させていただきたく存じますので、よろしくようお願い申し上げます。</p> <p>最後に、今後のビジョン懇談会の予定でございますが、今年度、あと2回の開催を予定しております。総合戦略及び共生ビジョンのKPIの効果検証を8月頃に、総合戦略及び共生ビジョンの所要の改訂を11月頃に実施する予定です。</p> <p>以上でございます。</p>
<p>座長</p>	<p>ありがとうございました。今後の予定等につきまして、ご質問等ございませんでしょうか。</p> <p>それでは、本日は長時間にわたりご審議いただきましてあ</p>

<p>(つづき)</p>	<p>りがとうございました。これをもちまして、令和5年度第1回「今治市ふるさと共創・共生ビジョン懇談会」を閉会いたします。</p> <p>皆様、本日はどうもありがとうございました。</p>
--------------	--